

令和6年度 学校経営計画・学校評価			☑4月4日提出	☑10月3日提出	☑3月14日提出	学校番号	21	高知北	高等学校	課程	多(昼)
高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人		基本方針	①予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備							
	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○高校を卒業したいという強い意志をもった生徒。 ○自分らしく学び、高校生活を送ることで成長したいという思いをもった生徒。 ○これまでの自分と違う新しいことにチャレンジしたいと願う生徒。 ○多様な背景をもった一人一人の違いを認め、ともに成長しようする生徒。			【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○共通講座・特別講座・高大連携を受講することで学びの幅を広げる。 ○不登校生徒が安心して教育を受けられる環境整備行い、生徒支援につなげる。 ○あったかノートやキャリアデザインノートなどを活用し、自己理解・他者理解・キャリアプランニング力などを高める。 ○ハートフルドア事業を活用し、教育・医療福祉の視点から生徒の成長を支援する。 ○特別な支援を必要とする生徒への教育の充実のため、「未来を拓く(通級による指導)」を実施する。							
スクール・ポリシー	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○他者の生き方を認め、自分自身の存在を前向にとらえようする心を育てる。 ○社会で自立して生きるために必要となる基礎学力を育成する。 ○社会生活に必要な社会人としての基礎力・社会性・コミュニケーション力を育てる。 ○最後まであきらめず、チャレンジする気持ちを育てる。										

学校関係者評価		
【学力の向上】	評価	【 A 】
・学校評価アンケートの「教員は分かりやすい授業に努めているか」の質問項目に対する生徒・保護者の肯定的回答が非常に高く、満足している様子がうかがえる。/・授業自己チェックシートの結果をもとに、授業改善に向けた検証改善サイクルが確立されている。また、生徒の学力保障においては、ICTの活用も定着してきており、生徒の実態に応じて、丁寧な取組が行われている。/・勉強の仕方が分からず、つまづいている生徒、学び直しを求める生徒をフォローする場があれば良いと思う。一方で、基礎学力がある生徒のやる気を引き出す手立てもあれば良いと思う。		
【社会性の育成】	評価	【 B 】
・昼間部、夜間部、通信制の各課程に所属する生徒にとって、「社会性」そのものが多様化している状況の中で、取組の方向性が明確になっているので、成果として現れる時期も近いのではないかとと思う。/・総合的な探究の時間や体験活動、学校行事等を通じて、他者との関わり合いの中で、生徒が主体的に考え、判断し、行動する場を意図的に設けるなど、生徒の社会性を育む取組が目標達成に迫っている。/・単位制のため、クラスや学年で友人と交流する機会が少ないので、皆で楽しめる機会がもっとあると良いと思う。同年代の友人から感じること、学ぶことが社会性を育成することにつながると思う。		
【チーム学校】	評価	【 A 】
・魅力ある学校づくりのために、進路保障、個別支援、教育相談に組織として力を入れている。また、働き方改革も進み、教職員の長時間勤務が解消されている。/・進路保障に向けた相談支援、通級による指導を通じた個別支援の実施、早期からの外部機関との連携や専門家の助言などを通して取組の効果がえられる。スクールポリシーの具現化に向けて、これまでの取組の継続と更なる充実を期待する。/・保育園や地域との交流はとても良いことであり、日常の中で挨拶を意識し行うことも大切だと思う。保護者も加わって、全体で学校を盛り上げ、あたたかい学校づくりができれば願っている。		

						(評価)A: 目標を十分に達成	B: 目標をほぼ達成	C: やや不十分	D: 不十分	
		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】		中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
重点項目	学力の向上	★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)	①基礎力診断テストにおけるC層以上の増加 1年(R6年度1年4月)10.2%→(R6年度1年12月)55% 2年(R6年度1年4月)34.6%→(R6年度2年12月)60% ②授業外学習時間の増加 1・2年(R6年度第1回)平均37分→(R6年度第2回)45分 ③将来のために勉強をしている生徒の増加 全学年(R6年度第1回)平均73.3%→(R6年度第2回)80% ④「学習のねらいが示されている」肯定的な回答割合100%(R6全学年平均91.8%) ⑤「学習活動を自ら振り返る場面が設定されている」肯定的な回答割合90%以上(R6全学年平均90.1%)	・公開授業週間年間2回を継続する ・ユニバーサルデザインに基づいた授業づくりに関する授業評価を実施する ・定期考査に向けた学習プリントを配付するなどして、自学に結び付ける ・面談等を通して、目標の早期設定に努める ・タブレットの活用や学力支援チームの助言等を全教科に共有する ・授業規律の徹底	B	①1年 10.2% 2年 34.6% ②1・2年平均37分 ③全学年平均73.3% ④全学年平均91.8% ⑤全学年平均90.1% 昨年度と比較すると②～⑤の項目で改善傾向が見られる	・第1回公開授業週間、授業自己チェックシートの結果をもとに授業改善に取り組み、第2回公開授業週間、授業自己チェックシート等で検証する ・学習活動の振り返りが学力の定着に結び付けられるよう各教科で授業の進め方等について検討する	A	①1年 19.5%(R5 1年34.6%) 2年 29.4%(R5 2年16.7%) ②1・2年平均28.5分(R5 25分) ③全学年平均70.2%(R5 70.8%) ④全学年平均90.3%(R5 89.0%) ⑤全学年平均84.5%(R5 80.4%) 昨年度と比較すると2つの項目で改善傾向が見られる	①については、授業において基礎・基本の徹底を継続して行う。 ②については、生徒が自由に課題に取り組めるような方法で実施する。③については、授業内容と実社会とを結び付けけるような問いを各授業で設定するよう努める。 ④、⑤については、公開授業週間、授業改善自己チェックシート及び生徒自己評価を年2回実施することで改善を図る
	社会性の育成	★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	⑥「自分のことが好きである」肯定的回答割合70%以上(R5第2回54.8%) ⑦「自分という存在を大切に思える」肯定的回答割合70%以上(R5第2回54.8%) ⑧「相手の気持ちを考えながら、自分の考えや気持ちを分かりやすく相手に伝えることができる」肯定的回答割合80%以上(R5第2回68.8%) ⑨「物事に取り組む際には、目標を立て、その達成のために努力できる」肯定的回答割合85%以上(R5第2回76.9%) ⑩「将来の夢や目標を持っている」80%以上(R5第2回66.8%)	○社会人としての基礎力 校内美化や挨拶を励行するとともに、授業、総合的な探究の時間、体験活動、行事等を通じて生徒の社会性の育成を図る ○生徒の自主活動の推進 生徒会活動・部活動の活性化やボランティア活動の推進を図り、生徒自ら主体的に考え、判断し、行動する場を意図的に計画する	B	⑥、⑧は、高知県オリジナルアンケート項目から削除されたことにより評価なし ⑦全学年平均63.2%(R5年度第2回58.0% R6年度県平均85.6%) ⑨全学年平均78.1%(R5年度第2回76.98% R6年度県平均86.9%) ⑩全学年平均71.6%(R5年度第2回66.8% R6年度県平均79.6%) 県平均を下回っているが、昨年度より数値は上昇している	・授業の挨拶をきちんとするといった基本的な事柄を徹底する ・総合的な探究の時間において、生徒自身が目標を立て、実行することができるよう支援する ・あったかノート、キャリアデザインノートを活用する ・個別面談の実施	B	⑥、⑧は、高知県オリジナルアンケート項目から削除されたことにより評価なし ⑦全学年平均76.3%(R5第2回58.0% R6県平均86.2%) ⑨全学年平均76.3%(R5第2回76.9% R6県平均86.3%) ⑩全学年平均71.5%(R5第2回66.8% R6県平均81.3%) 県平均を下回っているが、2つの項目で昨年度より数値が上昇している	⑦、⑨、⑩については、あったかノートやキャリアデザインノート、面談を通して、自己理解を進められるようにする。また、学校行事をはじめとする様々な活動において、その目標を生徒たちが理解したうえで取り組むことができるよう支援していく。授業の場面においても他者と関わる場面を意図的に計画するなど、社会性の育成を図る
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	⑪「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」肯定的回答60.0%以上(R5第2回46.4%) ⑫地域と連携した活動を10回以上実施する	○総合的な探究の時間「地域発見」「未来へのプロセス」等 ・自己理解と自己表現のスキル学習 ・地域の施設や郷土の偉人・史跡についての理解を深めるフィールドワーク ・専門学校や地元企業等についての理解を深める訪問、見学 ○防災授業や講演等を地域に開放する	C	⑪全学年平均59.7%(R5年度第2回46.4% R6年度県平均65.2%) ⑫地域と連携した活動 2回	防災授業や避難所開設訓練、保育園との合同避難訓練等、地域と連携した活動を実施する	A	⑪全学年平均60.5%(R5年度第2回46.4% R6年度県平均65.7%) ⑫地域と連携した活動 20回 地域と連携した活動は、担当の都合により実施できないものもあったが、ほぼ計画どおりに実施することができている	地域と連携した活動を実施することができているため、今後は参加生徒を増やすことができるような活動を生徒会を中心にを行う
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付けける力の育成	⑬「ペア活動やグループ活動などの場面では毎回参加することができている」肯定的回答70%以上	授業において、自らが考えたことを意見交換するなど、生徒同士が関わり合う場面を意図的に設定する	B	⑬全学年平均89.4% ・教員へのアンケート項目:「自ら考えたことを意見交換するなど、生徒同士が関わり合う場面を設定している」肯定群63.2%	授業評価等の結果を生かし、生徒同士が関わり合う場面を設定することができるよう授業改善を図る	A	⑬全学年平均前期89.4%→後期93.3%(暫定値) ・教員へのアンケート項目:「自ら考えたことを意見交換するなど、生徒同士が関わり合う場面を設定している」肯定群前期63.2%→後期82.6%(暫定値)(R5後期48.5%)	高知県オリジナルアンケート「学校の授業では、学んだ知識をもとに自ら考え、まとめたり、話し合ったり、発表したりする機会がある」の肯定的回答は県平均を大きく下回っているため、これまでの取組をこの質問項目を意識した取組に発展させていく

		取組のねらい【P】	現状と目標（評価指標）	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化 ・生徒の進路保障 ・通級による指導を通じた個別支援の充実 ・教育相談体制の再構築	⑭卒業予定者における進路未定者25%以内（R1:13%、R2:34%、R3:27.8%、R4:29.6%、R5:26.2%） ⑮通級による指導の体制づくりと教材・プログラムづくり ⑯「何か困ったことや問題が起きたとき、周りの人に相談することができる」生徒の肯定的回答：80%以上（R5：69.9%）	・進学に関しての情報提供や就職に関してアドバイザーの力を借りるなど、生徒の選択肢を増やしていく。また、多様な生徒の状況に対応するため、医療や福祉等に関係する外部機関の力を借りられる仕組みを整備し、新しい進路先の開拓を行う ・通級指導を県教委、高知大学等の力を借りながら、より学校の実態に応じたものへと発展させる。また、通級で学習したことを汎化できるようシステムづくりを行う ・些細なことでも教育相談に結び付けられるよう体制を構築する	B	⑭進学希望61.0%、就職希望34.1%、未定4.9%である ⑮高知大学の先生や生徒の主治医、子どものこころ診療医と連携を図りながら、通級の指導の充実に取り組んでいる ⑯全学年平均78.0%（R5第2回69.9% R6県平均84.3%） 教職員全員が生徒の話を聞くことに重点を置き、支援に結び付けている	A	⑭進学希望59.0%、就職希望35.9%、未定5.1%である ⑮通級対象者8名に対し、継続的な支援を実施できた ⑯全学年平均80.4%（R5第2回69.9% R6県平均85.6%） ⑭、⑯については昨年度より大幅に改善する傾向が見られるなど、目標を達成することができている	【進路保障】 これまでの取組について、実施する時期を早めるなど、早期対策の実施 【通級指導】 個別の支援を発展させるとともに、得られた見地を全生徒に波及する 【Fワボ、生徒サポート室等の活用】 Fワボ、生徒サポート室等を活用して、教育相談事業を強化するとともに、SC、SSW等とも連携し、主体的な問題解決につなげる
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	⑰現状課題 ・個人情報の適正な管理のために複数人によるチェックを徹底する ⑱校内研修等の実施回数 年4回以上 ⑲不祥事防止委員会の実施回数 6回以上	・成績会議後に個人情報の取扱いについて確認する ・研修において効果的な方策を検討する ・不祥事防止委員会では、些細な案件も見逃すことがないよう情報共有し、全職員に周知する	B	⑰複数人によるチェックを行っている ⑱前期で3回実施 ⑲前期で3回実施	B	⑰複数人によるチェックを行い、記録として残すようにしている ⑱年間で4回実施（予定を含む） ⑲年間で6回実施（予定を含む）	夜間部、通信制とも連携を図り、不祥事防止に関する研修を定期的の実施する
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○勤務時間の適正な管理 ○教職員のワークライフバランスの実現	⑳勤務状況一覧表の適正な運用・管理 ㉑2か月連続長時間勤務者（45時間）：0人	・月ごとの勤務状況一覧表のチェック ・長時間勤務者への指導・支援 ・会議等におけるペーパーレス化	A	㉑適正に運用管理を行っている ㉑0人	A	㉑適正に運用管理を行うことができている ㉑0人 長時間勤務になりそうな教員への声がけを継続することで、目標を達成することができている	【長時間勤務】 ・面談を継続して実施 ・スクラップできる業務を洗い出して実践する